

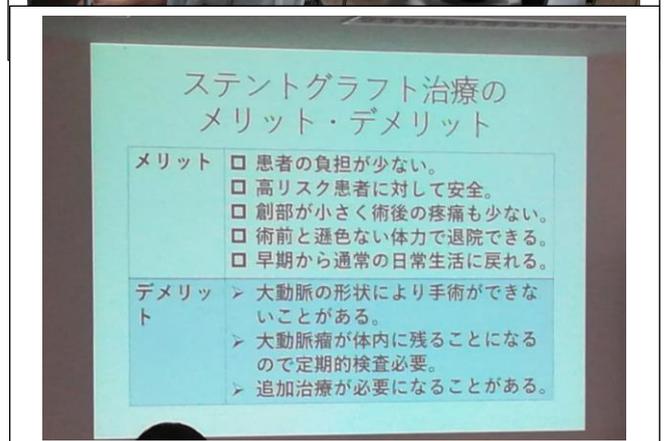
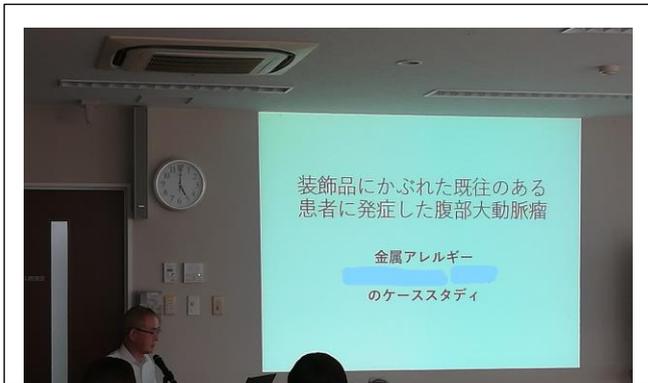
## 症例検討会

日時：R6年9月19日(木) 17時より開始

場所：新王子病院 4F 会議室

講師： 済生会八幡総合病院 腎センター 西原 学宣 先生

テーマ： 装飾品にかぶれた既往のある患者に発症した腹部大動脈瘤  
S. T様の症例（腹部大動脈瘤の症例）



今回の講義では、S.T様の病歴や経過・ステントグラフト治療・腹部大動脈瘤切除再建術について学びました。腹部 CTにて嚢状大動脈瘤を確認でき、ガイドラインでは手術適応でした。ステントグラフト治療施行予定で手術室搬送後に、手術室の看護師による情報収集にて、家族も知らなかった金属アレルギーが発覚し、当日の手術は見合わせとなりました。パッチテストを行った結果、3種類の金属アレルギーがあることがわかりました。ステントグラフト自体のテストも行い陰性でしたが、詳細な金属が不明で、金属アレルギー自体があるため、ステントグラフト治療の選択にはならず、腹部大動脈瘤切除再建術の選択となりました。アレルギーテストでは、通常のパッチテストのみではなく、金属に特化したパッチテストの方法を実際にした写真を含めて講義していただきとてもわかりやすかったです。ステントグラフト治療・腹部大動脈瘤切除再建術についても、メリット・デメリット・術後の死亡率や生存率、合併症、再治療率を詳しく説明していただきました。術後の死亡率・2年後の生存率は僅差であり、合併症再治療率はステントグラフト治療の方が高いことがわかりました。今回学んだことを活かし、腹部大動脈瘤の治療を理解し、患者様が治療選択できるよう務め、また、アレルギーなしと情報があっても、本人からもきちんと情報を引き出せるようになりたいと思います。